

授業づくりの基礎・基本

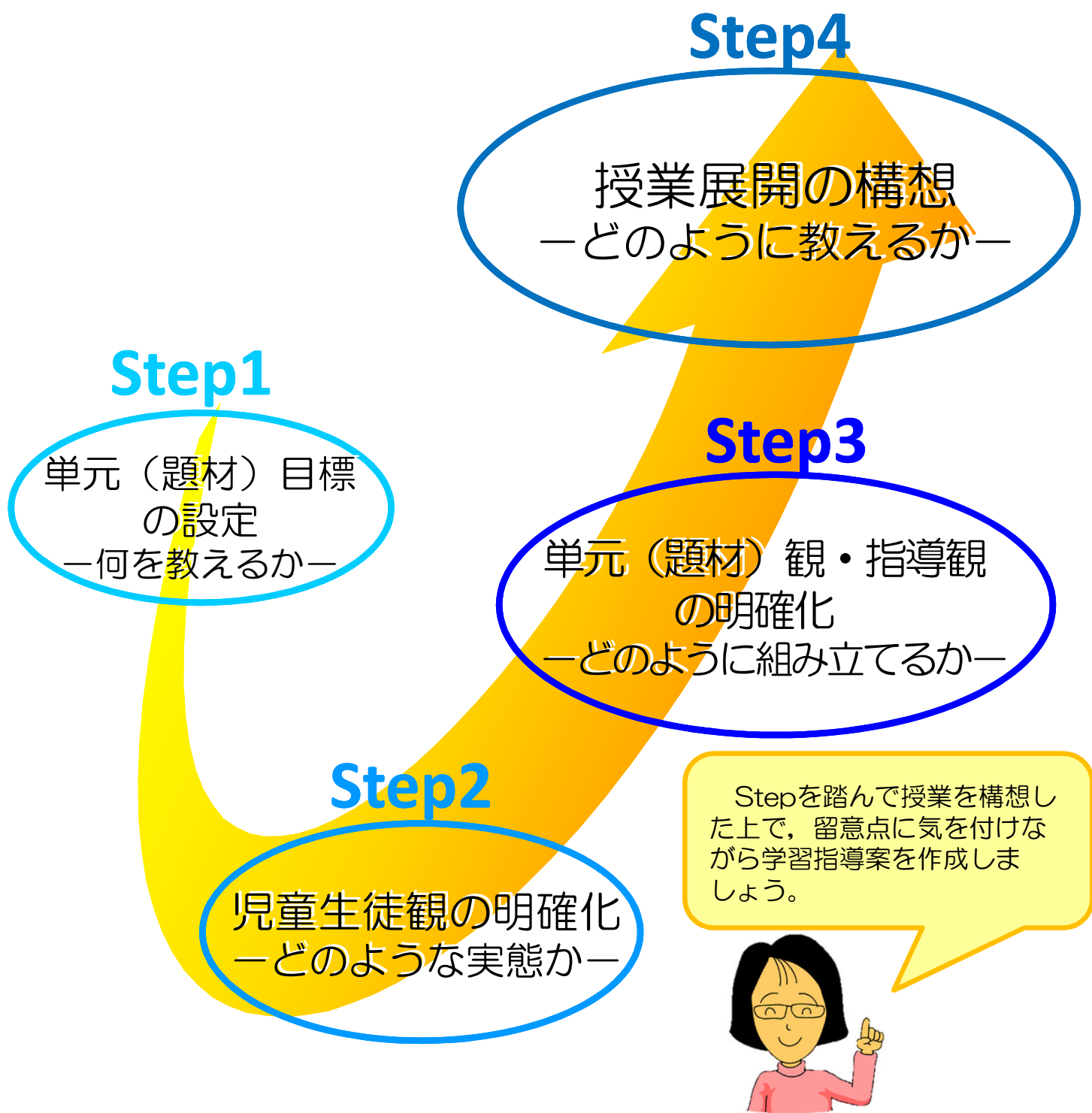
学校全体で授業改善に取り組むための授業づくりの進め方をまとめました

平成25年2月

岡山県総合教育センター



授業づくりの進め方



安心して学習できる環境づくり・学級づくり



◆落ち着いた学習環境

- ・清潔で整理整頓された環境を保つ
- ・安心して発言できる雰囲気をつくる 等

◆望ましい学習習慣

- ・時間を守る，私語をしない 等

◆安心して学習できるための支援

- ・言葉だけでなく視覚的に示す
- ・学習の時間や活動等の見通しをもたせる 等



学習指導案作成上の留意点



第 学年 組

学習指導案

平成 年 月 日 () 第 校時

教室 指導者

1 単元（題材）名

2 単元（題材）の目標

◇学習指導要領で示された目標及び内容を踏まえて設定する。（必ずしも全ての観点を踏まえた目標を記入するというわけではない。）

3 単元（題材）の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
----------	----------	----	-------

◇適切な評価ができるように、精選して簡潔に書く。
 ◇評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』（国立教育政策研究所）の「評価規準の設定例」を参考にする。

4 指導と評価の計画（全 時間）

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	思	技	知	
一	1		◇評価の観点が、単元（題材）の計画にどのように位置付けられているか分かるように示す。 ◇評価時期を考え、バランスよく評価する。				
	2						
二	1		◇毎時間の評価の観点は、一つ又は二つ程度に絞り、評価規準を具体的に書く。評価方法も合わせて記入する。				

5 指導上の立場

- 単元（題材）観、
- 児童生徒観
- 指導観
- 研究主題との関連

◇単元（題材）観、教材観……取り上げる単元（題材）の内容、既習事項との関連、今後の展開、その単元（題材）を取り上げる意義、単元（題材）・教材と児童生徒との関係などを明確に書く。
 ◇児童生徒観……児童生徒の興味・関心・意欲、単元（題材）に関する知識・技能、既習事項の定着度など前単元（題材）までの実態や本単元（題材）で育成を目指す力を明確にして書く。
 ◇指導観……指導・支援の力点、学習形態、仮説、その他の配慮事項など、児童生徒のよさや可能性を生かすような工夫や手だてを具体的に書く。
 ◇研究主題との関連……研究主題の説明を簡潔に記述し、研究主題と授業研究における指導仮説との関連を明確にして書く。

6 本時案（第 次）

(1) 本時の目標

◇単元（題材）の指導計画に則して、本時の学習活動の目標を具体的に示す。
 ◇本時の評価規準との整合を図る。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、児童生徒の活動を書く。 ◇一人一人の児童生徒が何をめあてに活動すればよいのかをつかむことができるように具体的に書く。	◇学習過程に沿って、指導・支援の意図、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に書く。 ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。	◇本時の目標との整合を図る。 ◇評価規準を具体的に書く。 ◇評価の観点を踏まえて書く。 ◇評価方法も書く。

Step1 単元（題材）目標の設定 —何を教えるか—

◆学習指導要領で示された目標及び内容を確認する。

●第3学年の内容（小学校）

〔C 図形〕

C(1) 二等辺三角形，正三角形などの図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して，図形を構成する要素に着目し，図形について理解できるようにする。

ア 二等辺三角形，正三角形について知ること。

イ 角について知ること。

ウ 円，球について知ること。また，それらの中心，半径，直径について知ること。

〔算数的活動〕(1)

エ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスを用いて作図する活動



新たな単元（題材）に入る前には，学習指導要領解説によって，単元（題材）を学ぶ意義や指導内容の位置付けを確認しましょう。



『小学校学習指導要領解説 算数編』（2008，文部科学省），p.106

◆『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』に示された「評価規準の設定例」を参考に評価規準を設定する。

Ⅲ 第3学年 【「C 図形」の評価規準に盛り込むべき事項】（小学校）

評価規準を設定することで，単元（題材）目標がより具体化され，指導のイメージをもつことができます。

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
二等辺三角形，正三角形，円などの性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとしている。	二等辺三角形，正三角形，円などの図形についての観察や構成などを通して，日常の事象について見通しをもち筋道立てて考え表現したり，そのことから考えを深めたりしている。	二等辺三角形，正三角形，円などの図形を構成するなどの技能を身に付けている。	二等辺三角形，正三角形，円などの図形についての感覚を豊かにするとともに，それらの意味や性質について理解している。

【「C 図形」の評価規準の設定例】



算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
・身の回りから，二等辺三角形や正三角形を見つけようとしている。 ・二等辺三角形や正三角形を作図したり，構成	・三角形について，その違いに気付き分類し，分類した三角形の特徴を見いだしている。 ・二等辺三角形や正三角	・定規とコンパスを用いて，二等辺三角形や正三角形を作図することができる。 ・二つの角を重ねること	・二等辺三角形や正三角形の意味や性質について理解している。 ・二等辺三角形や正三角形で平面を敷き詰めて，

『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 算数）』（2011，国立教育政策研究所），p.39～40

◆指導内容の系統を確認する。

どこまで学習しているのか
（どのような力を身に付けてきたのか）

本単元

何を学習するのか
（どのような力を身に付けなければいけないのか）

どのような学習に発展するのか
（どのような力を身に付けていくのか）

本単元（題材）と関連のある単元（題材）・教材をいつ学んだかだけでなく，どこまで学習し，どのような力を身に付けてきたかなど，これまでの学習の経緯を把握することが大切です。



評価についてもっと知りたい方は >>> 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』（2011，2012，国立教育政策研究所）

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

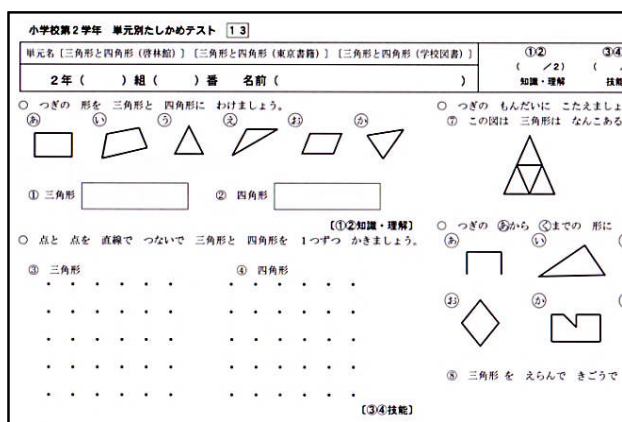
Step 2 児童生徒観の明確化 —どのような実態か—

◆単元（題材）に関する児童生徒の実態（学習到達状況）を確認する。

〈児童生徒の実態（学習到達状況）を明確に捉えるための視点〉

- 何を：本単元（題材）で取り上げる評価の観点に関する学習状況
- 何で：診断テスト、行動観察等
- どのように：児童生徒一人一人

学習到達状況を捉える際には、学級全体だけではなく、児童生徒一人一人に対して教科等の特性を踏まえ、客観的な見方をするように努める必要があります。



「第2学年 単元別たしかめテスト13」『学習到達度確認テスト（小学校算数）』（2010, 岡山県教育委員会）

児童生徒の実態把握には、次の調査問題等の活用が考えられます。

- 全国学力・学習状況調査〔文部科学省〕
- 岡山県学力・学習状況調査〔岡山県教育委員会〕
- 読解力テスト（国語，社会，理科）〔岡山県教育委員会〕
- 学習到達度確認テスト（算数，数学）〔岡山県教育委員会〕

⊗ 学習指導の工夫 ⊗

教師の説明を中心とした一斉指導だけでなく、次に示すような様々な指導の工夫によって、学習指導を充実させましょう。

学習形態の工夫

一斉学習や個別学習だけでなく小集団学習（グループ学習，ペア学習）を取り入れることで学習効果を高めることも考えられます。

〈小集団学習を取り入れる際の留意点〉

- 活動の目的を明確に示すこと
- 集団への適切な指導を行うこと
- 他の学習形態と組み合わせること

机間指導の工夫

机間指導をすることで、一人一人の学習状況を把握し、その後の展開に生かすことが大切です。

〈机間指導の留意点〉

- 児童生徒の予想される反応例とそれに対する指導を、授業前に具体的に想定しておくこと
- 座席表を活用して、個々の学習状況を捉えること

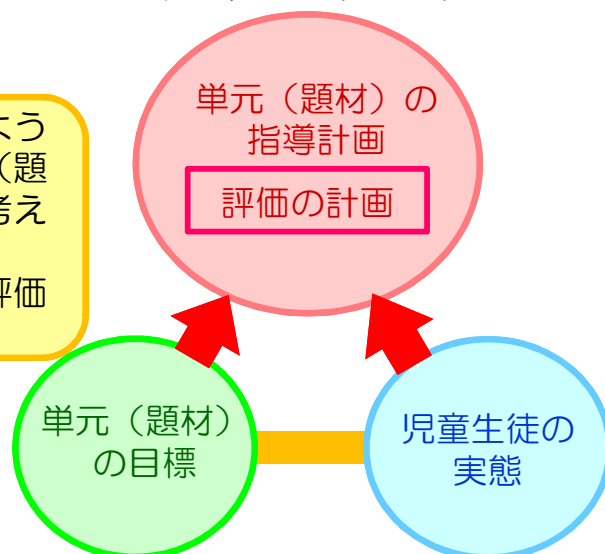


Step 3 単元（題材）観・指導観の明確化 —どのように組み立てるか—

- ◆単元（題材）の目標や児童生徒の実態を基に，単元（題材）の指導計画を構想する。

まず，何を，どのような順序で，どのような活動を通して学ばせると効果的に単元（題材）目標を達成することができるのかを考えましょう。

次に，評価時期を考え，バランスよく評価できるようにしましょう。



- ◆目標や児童生徒の実態に適した指導の工夫や手だてを明らかにする。

〈教材研究のポイント〉

- 単元（題材）の目標につながるようにする
- 児童生徒の実態に合わせるようにする
- 効果的に学ばせる教材・教具としてほかにどのようなものがあるか留意する



教材・教具は単元（題材）の目標を達成させるための道具（手段）です。道具は使い方によって，発揮する効果が違ってきます。まずは，教材・教具の価値や特性を理解することから始めましょう。



指示・説明の工夫

指示は，児童生徒の学習活動を促す大切な働きをします。また，指示・説明は発問につながる大切なものです。

〈適切な指示〉

- 目安やイメージがわく言葉を入れた指示

〈適切な説明〉

- 重要な箇所がはっきりと分かる説明
- 結論や概論を先に示した論理的な説明

発問の工夫

発問は，児童生徒の思考を促し，学習活動を深めるものです。展開に応じて，「何のために，何を考えさせればよいか」を考慮した発問をすることが大切です。

〈適切な発問〉

- 明瞭・簡潔で分かりやすい発問
- 新たな気づきを促す発問
- 多様な考えを引き出す発問



Step 4 授業展開の構想

—どのように教えるか—

◆ 単元（題材）の指導計画を基に、本時の授業を構想する。

6 本時案（第〇次 第〇時）

(1) 本時の目標

- ◇ 単元（題材）の指導計画に則して、本時の学習活動の目標を具体的に示す。
- ◇ 評価規準との整合を図る。

本時案例

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 導入・展開・終末の学習過程に沿って、児童生徒の学習活動を書く。 ◇ 一人一人の児童生徒が何をめあてに活動すればよいかをつかむことができるように具体的に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学習過程に沿って、指導・支援の意図、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想される児童生徒の反応 ・ 「努力を要する」状況（C）と判断される児童生徒への手だての例 ・ 児童生徒が主体的に、学習を進める手だて ・ 資料提示の機会や方法 ・ 効果的な学習方法や学習形態の工夫 ・ 準備物 等 ◇ 学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 本時の目標との整合を図る。 ◇ 評価規準を具体的に書く。 ◇ 評価の観点を踏まえて書く。 ◇ 評価方法も書く。

* 学級の状態に応じて、特別な支援を必要とする児童生徒の実態を明確にした上で、授業展開に応じた適切な支援を想定しておくことも大切です。

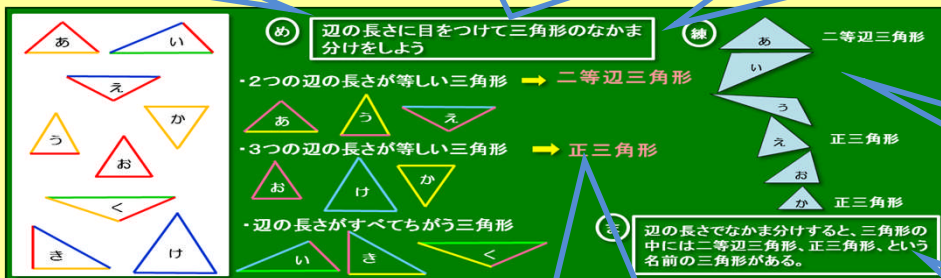
構造的で分かりやすい板書例

授業のねらいを書いて、見通しをもたせましょう。

正しい筆順で誤字のないように、丁寧に書きましょう。

児童生徒の発表を板書に位置付けましょう。

板書は、児童生徒の思考の足跡です。どのように考え、何を学習したかを振り返ることができるように分かりやすくまとめましょう。



文字の大きさは、児童生徒の立場で確認しましょう。

枠で囲むことも効果的です。

黒板の1面分は、児童生徒のノートの2ページに収まるくらいの情報量にしましょう。

色チョークは、ルールを決めて使いましょう。

- 指導助言者 大阪教育大学教育学部教授 木原 俊行
- 研究委員 岡山県総合教育センター 教科教育部長 平賀 和治 指導主事 片岡 学 塩崎 弘之

- 協力校 玉野市立山田小学校 玉野市立山田中学校 岡山県立鴨方高等学校

平成25年2月発行 授業づくりの基礎・基本
 【編集兼発行所】 岡山県総合教育センター
 〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545- 11
 TEL ; 0866-56-9101 FAX ; 0866-56-9121
 URL ; <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>
 E-mail ; kyouikuse@pref.okayama.lg.jp

授業づくりのためのチェックリスト

学校全体で授業改善に取り組むためには、授業者と参観者で授業づくりの視点の明確化、共有化を図ることが大切です。チェックリストを活用して、授業づくりの視点に基づいた協議を行い、授業改善を目指しましょう。

◆授業前・・・学習指導案を確認しましょう。

	単元（題材）の目標は、学習指導要領解説等に示された目標や内容を踏まえて設定されているか。
	単元（題材）の評価規準は、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』に示された「評価規準の設定例」を参考に設定されているか。
	単元（題材）の指導内容に関する児童生徒の実態（学習到達状況）を把握することができるか。
	本単元（題材）で取り上げる評価の観点、指導と評価の計画の中にバランスよく位置付けられているか。
	本時の目標は、単元（題材）の指導計画に則して、具体的に示されているか。
	本時の目標は、本時の評価規準と整合しているか。
	学習過程に沿って、指導・支援の意図、工夫、手だてなどが、具体的に示されているか。
	「努力を要する」状況（C）と判断した児童生徒への手だての例が、具体的に示されているか。

◆本時の授業・・・授業の流れに沿って確認しましょう。

	児童生徒の興味・関心を高めるための導入の工夫がなされているか。
	児童生徒に学習の見通しをもたせるための工夫がなされているか。
	適切な指示・説明・発問が行われているか。
	新たな気づきを促したり、多様な考えを引き出したりする発問が行われているか。
	板書は、授業内容を構造的で分かりやすく示すものになっているか。
	机間指導により、一人一人の学習状況を把握し、指導に生かしているか。
	展開に応じて、グループ活動やペア学習などを効果的に取り入れているか。
	目標を達成するためにふさわしい教材・教具が使用されているか。
	児童生徒が自分の思いや考えを説明することのできる場を設定しているか。
	評価の場面において、適切に評価が行われているか。
	振り返りの時間を確保し、児童生徒に学習の成果を自覚させているか。
	課題（めあて・目標）と整合性のあるまとめがなされているか。

◆授業後の協議の視点・・・次のような視点で振り返りましょう。

- どのような活動を通して、付けたい力を身に付けさせていたか。
- その力を身に付けさせるために、どのような工夫がなされていたか。
- 本時の評価は、どの段階で、どのように行われたか。
- 「努力を要する」状況（C）と判断した児童生徒に、どのような手だてが講じられたか。
- 「おおむね満足できる」状況（B）または「十分満足できる」状況（A）と判断した児童生徒の姿は、どのような姿であったか。